

# 自立活動だより



紀北支援学校自立活動部

令和7年2月発行

自立活動は、児童生徒の困り感を知ることから始まり、児童生徒が自立し、より豊かな生活を送るための力をつけることの土台となる教育活動なので、自立活動の取組は、児童生徒ひとりひとりの課題に迫り、支援方法を考えていくことで成り立っています。

今年度最後の自立活動だよりは、自立活動の取組が行われるまでの過程と実際の取組を紹介したいと思います。

## 今月号のテーマ

## 自立活動の授業はこうしてつくられる！

### 授業ができるまでの過程

#### ① 児童生徒を知る

児童生徒の様子をよく見て、得意なことやできていること、困っていることやできていることなどを、ていねいにみていく。

#### ② その行動の「なぜ？」を探る

例えば、「思い通りにならないとパニックになる」



- ・気持ちを伝えかたがわからないから？
- ・気持ちの落ち着け方がわからないから？



#### ③ それぞれの困り感のつながりを整理してつきたい力を考える。

(できていることも含めて検討する)

#### ④ 1年間の目標を決める

できていることをヒントにして  
「こうすればできるかも?!」を  
考えていく

#### ⑤ 目標を達成するために、自立活動の時間に取り組む内容を決める。

このような過程を踏んで、授業（指導内容）が決まっていきます。  
では、実際に今年度行われた自立活動の取組を紹介したいと思います。

### Aさん

人と関わるのが大好きで、話したいこともたくさんあります。身振りで一生懸命伝えますが、伝わるまでに時間がかかったり、伝わっていないことがあります。スムーズにコミュニケーションがとれたらいいな。



#### Aさんのできていること！

言葉と文字が一致している。  
伝えたい気持ちが大きい。諦めずに伝えようとする。

ヒントにして  
考えました

目標：コミュニケーション手段を身につける

そこで・・・「文字盤を使って伝えたい言葉の文字を指差す練習」に取り組みました



楽しい話、伝えたい気持ちがあふれている時に、教師が話しながら文字盤の文字を押さえます。間をおくとAさんが続きを押さえます。やりとりを続けていくうちにスムーズに使えるようになってきました。

### Bさん

ことばで気持ちを伝えるのが難しいために、伝えたいことが伝わらずパニックになることがあります。本が好きで図書室に行きたい時には、担任に視線を送ります。



#### Bさんのできていること！

やりたいことがある時には視線を送り近づいてくる。  
「本を見たい」というやりたい（好きな）ことがある。



スモールステップで

目標：選択して伝えることができる

気持ちを伝えるための第一歩として  
“選択する練習”に取り組んでいます。

そこで・・・「朝の会の出席確認の場面で『元気です』『しんどいです』などのイラストカードから1枚選んでホワイトボードに貼ってみんなの前に出て報告すること」に取り組みました。



カードを選べるようになりました。天気のカードも、雪の日には雪のカードを選んで貼れました。

このようにして、児童生徒の困っていることを受け止め、「なぜこのような行動をとるのかな?」「こんなことができるようになったらいいな」を考え、今できていること、興味関心のあることなどを取り入れながら、紀北支援学校の自立活動は取り組まれています。